

1. 立体模型地図作成にあたって

初めて手にした地図帳に子どもたちは大きな興味を示した。地名探し等は喜々として活動する。しかし、土地がなだらかであるとか、どこかの山が急で険しいとか、川は谷を流れるといった土地の高低を立体的に捉えることは、4年生には視覚的にも感覚的にもむずかしい。

そこで、土地の凹凸のようすを具体的に理解し、楽しく地図学習を進めるための方法として、立体模型地図の作成を実践することにした。

2. 指導の実際

材料は、50万分の1 地方図を元に、100mごとに等高線を写した色画用紙を準備した。その用紙を段ボールなどの厚紙に貼り、等高線に沿って切り取った各パーツを貼り重ねることで高さが出るように工夫した。

子どもたちは、作り方の説明を聞いた後、われ先にとはさみを手に取り、勢いよく等高線に沿って厚紙を切りはじめた。

「この形は狼に似ているぞ」「いやきつねだ」「熊本にはこんな小さな島もあるのか」「ここは凹んでいるから人吉盆地だぞ」「南の山は急だな」とつぶやきながら、チャイムがなったのも気づかず、夢中になって作業を続けた。

熊本県の地形が明らかになると、地図帳と見比べ、知っている地名や市町村の場所を確認しつつ、ラベルを貼っていった。

立体地図が完成すると、満足げに自作品を見て、熊本県の地形についてわかったことをまとめた。子どもたちは、立体地図を見ながら土地の高低や新たに見つけた地名などをシートに記入し、熊本県の自然地形の特色や隣接する県、また県内の市町村の位置関係などについて理解を深めていった。

— 児童の発見・感想・わかったこと —

- 熊本県は、熊が魚を取っている形に似ている。
- 東の方へいくにつれて土地が高くなっていて、特に南側の九州山地は斜面が急だ。
- 熊本県は、福岡、大分、宮崎、鹿児島など、たくさんの県に囲まれている。
- 県境は、山の尾根にあたるところが多い。
- 阿蘇のカルデラは、直径約30kmもあり、玉名市がすっぽり入る広さだ。
- 九州山地には、1700m以上の国見岳があり、阿蘇山よりも高いことに驚いた。
- 天草には、小さな島がたくさんあり、平地は少ない。高い所で400mくらいの土地だ。

3. 指導の成果と課題

立体地形図作りは子どもたちの学習意欲を引き出すものとしては、大変効果的な教材だったと言える。熊本の地形の様子について、視覚的・感覚的にイメージがわき、「熊本とは、いったいどんなところなのだろうか。」という問題意識をもちつつ、楽しく制作に取り組むことができた。

また、できあがった立体地形図そのものにこだわるのではなく、「地形図からどんなことがわかったか」という視点で、同じ考えのところ、気づかなかったところ、互いに違う意見等についても認め合うことができた。

作業的な学習活動を取り入れた地図学習は、単なる知識習得のみの学習ではなく、子どもたちの理解を深め、興味・関心を高めるとともに、自主的・主体的態度の育成まではかるなどの好結果をもたらした。

今後、さらに地図学習の魅力を子どもたちとともに探求していきたい。

